

「下水道浸水対策計画2022」意見募集の実施結果

1	募集期間 令和4年2月15日（火）から令和4年3月17日（木）までの31日間
2	意見等件数 17件
3	提出方法 電子メール2通、郵送3通

この度は多数の御意見をお寄せいただき、ありがとうございました。御意見とともに下水道局の考え方・対応等をお知らせします。

※類似する御意見等については、主な内容が該当するところにまとめさせていただいています。

【全体】

No.	御意見等（概要）	下水道局の考え方・対応等
1	本計画に多摩地域は含まれているのか。多摩地域も対象にすべきではないか。	公共下水道事業は、原則として市町村が行う事業とされており、多摩地域では市町村が事業を行っています。しかし、特別区の存する区域は行政の一体性を確保する観点から、区部全域を東京都が市の立場で事業を行っています。本計画は東京都下水道局が23区を対象として策定するものです。
2	区部の下水道管は合流式下水道なのか。また、雨水調整池は地下にあるのか。	下水道には汚水と雨水を一つの下水道管に集める合流式下水道と、汚水と雨水をそれぞれの下水道管に集める分流式下水道があります。23区の約8割が合流式下水道であり、足立区や世田谷区の一部地域については、分流式下水道となっています。また、雨水調整池とは、大雨が降ったときに、一時的に雨水を貯留する施設であり、地下に設置されています。

【第2章 浸水対策の現状と課題】

4.これまでの下水道整備による効果

No.	御意見等（概要）	下水道局の考え方・対応等
3	令和元年東日本台風時、神田川沿いで浸水被害が発生しなかったのは、下水道整備ではなく河川整備の効果ではないのか。	浸水被害の原因には、大雨により河川があふれる「外水氾濫」と、大量の雨が短時間に下水道管に流入し、下水道管の能力を超えて発生する「内水氾濫」があり、河川と下水道の両方で対策を講じています。このことから、令和元年東日本台風時においても河川整備と下水道整備の両方の効果により、浸水被害が軽減したものと考えています。

5.近年の降雨と浸水被害の状況

No.	御意見等（概要）	下水道局の考え方・対応等
4	<p>【5-2. 近年の浸水被害の発生状況】</p> <p>図表2-12「近年発生した内水氾濫による浸水被害」に「※内水氾濫以外による浸水被害棟数を除く。」とあるが、浸水面積も除いているのではないか。</p>	<p>ご意見いただきましたとおり、浸水被害棟数と浸水面積を除いています。そのため、「※内水氾濫以外による浸水面積・被害棟数を除く。」と、表現を修正いたします。</p>
5	<p>【5-2. 近年の浸水被害の発生状況】</p> <p>区部の計画にも関わらず、多摩地域の浸水被害が含まれているのはなぜか。</p>	<p>本計画は23区を対象としていますが、近年の降雨と浸水被害については、傾向を把握するため東京都全域を対象に分析しています。</p>
6	<p>【5-2. 近年の浸水被害の発生状況】</p> <p>過去の浸水被害では、1時間50ミリの施設整備水準を下回る降雨でも浸水被害が発生している。これはなぜか。また、このような浸水被害に対して本計画ではどのように対応するのか。</p>	<p>現在時間50ミリに対応する施設を整備中の地区があること、降雨を取水する道路雨水ますがゴミなどにより塞がれていたり不足していることなどにより雨水が取水できないこと、また雨が短時間に集中的に降ることなど様々な要因により、1時間50ミリを下回る降雨によって浸水が発生する場合があります。</p> <p>そのため、浸水の発生要因にあわせて、区など道路管理者と連携した道路雨水ますの清掃、増設を行うことや、必要に応じてバイパス管を設置するなど、スポット的な対策も含めて検討していきます。</p>
7	<p>【5-2. 近年の浸水被害の発生状況】</p> <p>令和元年の浸水被害状況を反映していないのはなぜか。</p>	<p>本計画を策定するにあたり、令和3年7月から12月の期間で、学識委員から成る「今後の下水道浸水対策のあり方検討委員会」で検討を行いました。</p> <p>令和元年の水害データは12月末に公表されましたが、委員会での検討時には、公表されていませんでした。このため、委員会では、平成30年までの水害データを基に分析し、本計画を策定しています。</p>

6.気候変動とその影響

No.	御意見等（概要）	下水道局の考え方・対応等
8	<p>【6-2. 気温上昇による降雨の変化】 国土交通省「雨水管理総合計画策定ガイドライン（案）」に基づく降雨量変化倍率1.1は、本計画ではどのように考慮したのか。</p>	<p>国土交通省で公表している「雨水管理総合計画策定ガイドライン（案）」の内容も考慮し、目標整備水準を1時間50ミリから1時間75ミリにレベルアップしています。</p>

7.これまでの下水道整備による能力検証

No.	御意見等（概要）	下水道局の考え方・対応等
9	<p>【7-2. 流出解析シミュレーションによる能力検証結果】 流出解析シミュレーションの条件（河川整備の反映状況、流出係数など）はどのように設定したのか。</p>	<p>本計画における流出解析シミュレーションは、大量の雨水が下水道に流入し、下水道管の能力を超えて内水氾濫が発生する地区を確認するために実施しています。そのため、河川施設については、計画されている河川整備が完了した状況をモデル化した上で、河川水位を反映して実施しています。</p> <p>また、流出係数については、土地利用現況調査及び用途地域を基に、未利用地が宅地化されることを想定するなど、将来の土地利用状況を予測して設定したものを活用しています。</p>
10	<p>【7-2. 流出解析シミュレーションによる能力検証結果】 流出解析シミュレーションの結果を計画書に記載してほしい。</p>	<p>本計画における流出解析シミュレーションは、重点地区を選定することを目的としており、現在整備している下水道施設が完成した状況や、計画されている河川整備が完了した状況をモデル化して、1時間75ミリ降雨を対象として実施しています。</p> <p>将来の施設整備を反映した浸水予想であり、既に公表している避難等を目的とした浸水予想区域図と作成条件が異なることから、シミュレーション結果の活用に当たって誤解を招く可能性があります。また、シミュレーションデータも膨大となっています。</p> <p>このため、本計画書には記載していません。</p>

【第4章 新たな重点地区の選定】

2. 新たな重点地区

No.	御意見等（概要）	下水道局の考え方・対応等
11	重点地区に選定された地区では、どのような降雨で浸水被害が発生したのか。	浸水被害及び降雨状況は、東京都建設局HP「過去の被害記録」で公表されているデータを基に確認しており、平成30年8月27日や平成30年9月18日に発生した集中豪雨などにより浸水被害が発生しています。
12	新たな重点地区は10地区で十分なのか。	浸水対策を効率的に進めていくためには、浸水の危険性が高い地区を優先的に整備する地区として選定し、幹線や貯留施設などの整備を重点化する必要があります。また、下水道の浸水対策は、事業用地の確保や対外調整、下水道管布設ルートの検討など事業着手まで時間を要します。そのため、事業を円滑に進めるためには、長期的な視点で検討していくことが重要であることから、本計画の計画期間を15年とし、新たな重点地区を10地区選定しました。なお、浸水の発生状況等、浸水対策を取り巻く状況に変化があった場合には見直しを検討することとしています。

【第5章 ソフト対策の充実】

5. ソフト対策の3つの取組分野

No.	御意見等（概要）	下水道局の考え方・対応等
13	【5-3. 取組分野3：浸水リスクや浸水対策情報の認知度向上】 下水道幹線の水位情報の公表や、浸水を発見した都民が動画や写真を投稿できる仕組みの整備により、浸水に強い街づくりや早めの避難に繋がる情報発信をしてほしい。	当局では、独自の光ファイバー通信網を活用し、希望する区へ下水道管の水位情報を提供しており、豪雨時の初動体制の判断方法の一つとして活用されています。引続き大雨に備える情報発信を行っていきます。

【第6章 施設整備手法】

2.効果的な施設整備

No.	御意見等（概要）	下水道局の考え方・対応等
14	<p>【1. 75ミリ施設整備の考え方】</p> <p>自宅の前には既に幹線が埋設されているが、更に深い位置に浸水対策のための貯留施設が新たに整備されることになった。先日の高速道路工事中の陥没事故を見ると、安全性の観点から大深度施工は安心できない。経路を変更するなど同じ場所に負担をかけない方法はないのか。</p>	<p>浸水被害を防ぐためには必要な場所に必要規模で施設整備を行う必要があります。工事においては、お客さまからのご理解・ご協力をいただきながら、安全に留意して進めてまいります。</p>
15	<p>【2-1. 段階的施設整備】</p> <p>近年、水理模型実験やCFD解析等、下水道管内の状況をより精度高く表現する技術が実用化されている。このような新たな技術を施設設計に積極的に活用し、事業効果を高めるべきではないか。</p>	<p>下水道局ではこれまでも必要に応じて水理模型実験やCFD解析等を活用するなど、施設整備を進めています。今後も新しい技術開発の動向を踏まえながら、事業効果を高める施設整備に努めてまいります。</p>
16	<p>【2-3. スポット対策】</p> <p>流出解析シミュレーションで特定した小規模な浸水にあらかじめ対策を検討したり、周知すべきではないか。</p>	<p>重点地区については、浸水被害の実績と流出解析シミュレーションの結果を踏まえ、浸水リスクのより高い地区を選定しています。小規模な浸水などピンポイントで発生している場合においては、地域特性などを踏まえ、スポット対策の実施を検討していきます。</p>

【その他の御意見】

No.	御意見等（概要）	下水道局の考え方・対応等
17	<p>ヒートアイランド現象による都市の温暖化を防ぐため、空き家・空きビルを取り壊して空地を増やした方がいい。</p>	<p>都では、庁内各局及び区市町村が協力して、幅広いヒートアイランド対策を展開しています。頂いた御意見は今後の取組の参考にさせていただきます。</p>